

口絵1 1914（大正3）年1月12日午前10時30分（鹿児島県立博物館蔵）



口絵2 1914（大正3）年1月24日（垂水港より撮影）
（撮影：宮原景豊，鹿児島県立博物館蔵）



口絵3 河川氾濫の状況（肝属郡役所，1915）



口絵4 1914（大正3）年1月27日午後4時（瀬戸）
（撮影：宮原景豊，鹿児島県立博物館蔵）



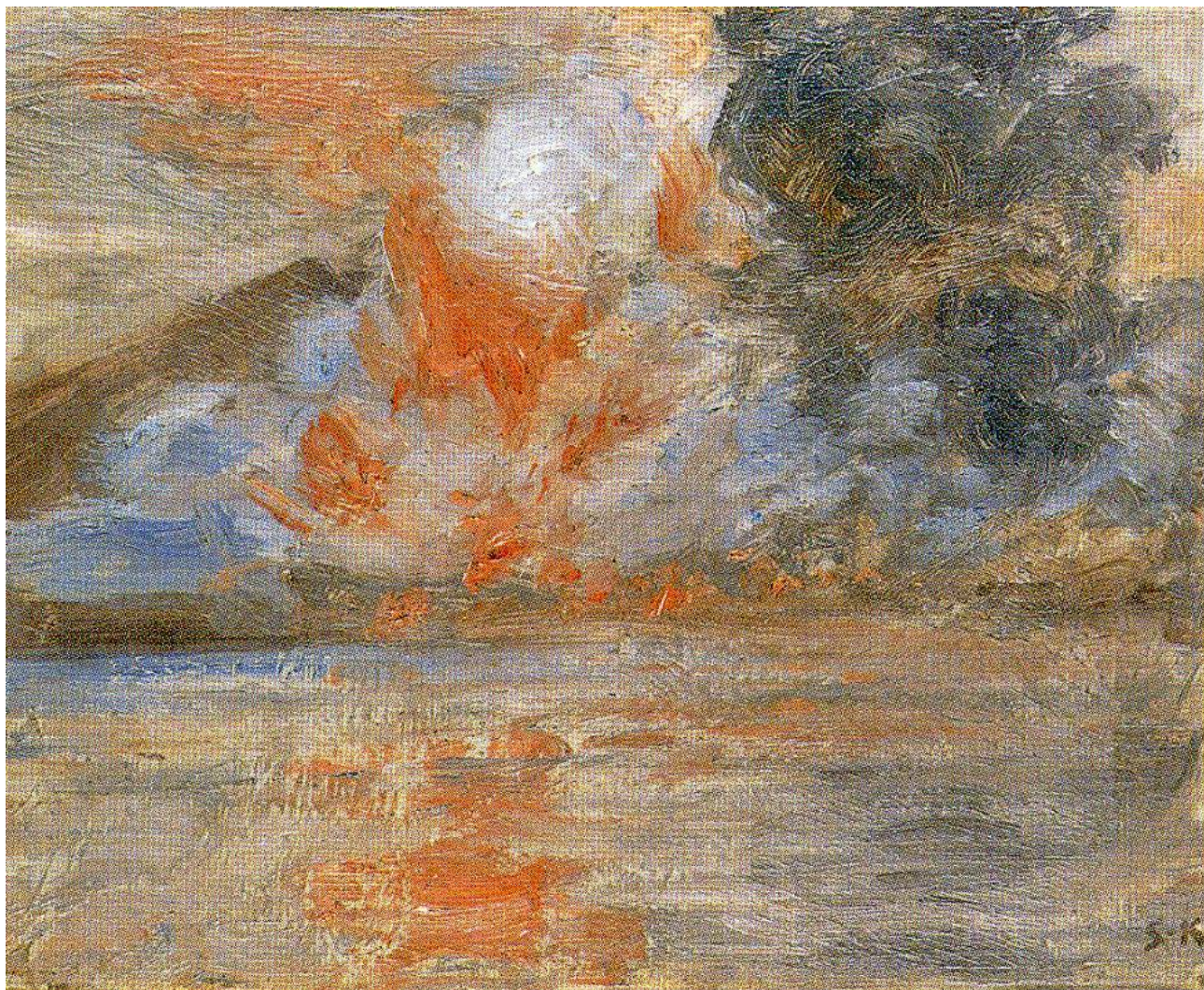
口絵5 1914（大正3）年2月2日（戸端下）
（撮影：宮原景豊，鹿児島県立博物館蔵）



口絵6 埋没鳥居（鹿児島県歴史資料センター黎明館蔵）



口絵7 現在の埋没鳥居（2009年9月撮影）



口絵 8 黒田清輝「桜島爆発図（噴火）」1914（大正3）年

（鹿児島市立美術館蔵）

鹿児島市立美術館には黒田清輝の「桜島爆発図」と題した一連の油絵6点（荒廃）（降灰）（湯気）（噴煙）（噴火）（熔岩）が所蔵されており、これはその1点である。これらに関しては、面白い話がある。大森房吉が「すばらしい獲物があった」と助教授の今村明恒に黒田画伯の6枚1組の寫生帖（スケッチ）を示したという。今村は「博士の手柄談を聞き、心密かに一層の功を収めんことを期して、直ちに畫伯を訪ねた處、計畫圖に中り、其六枚の油繪は固より、避難の途中寫生の素描を帖面から切り取り落款まで押し余に惠與せられた。實に大森博士には萬事に頭の上がらなかった余も此時ばかりは聊か勝利を得た様な思をしたのであった。」と『大正三年櫻島噴火探検二十五周年追憶記』の序文で当時を回顧している。その後、今村の遺族から市立美術館に寄贈されたものである。



口絵 9 山下兼秀「夜の桜島」(鹿児島県立博物館蔵)

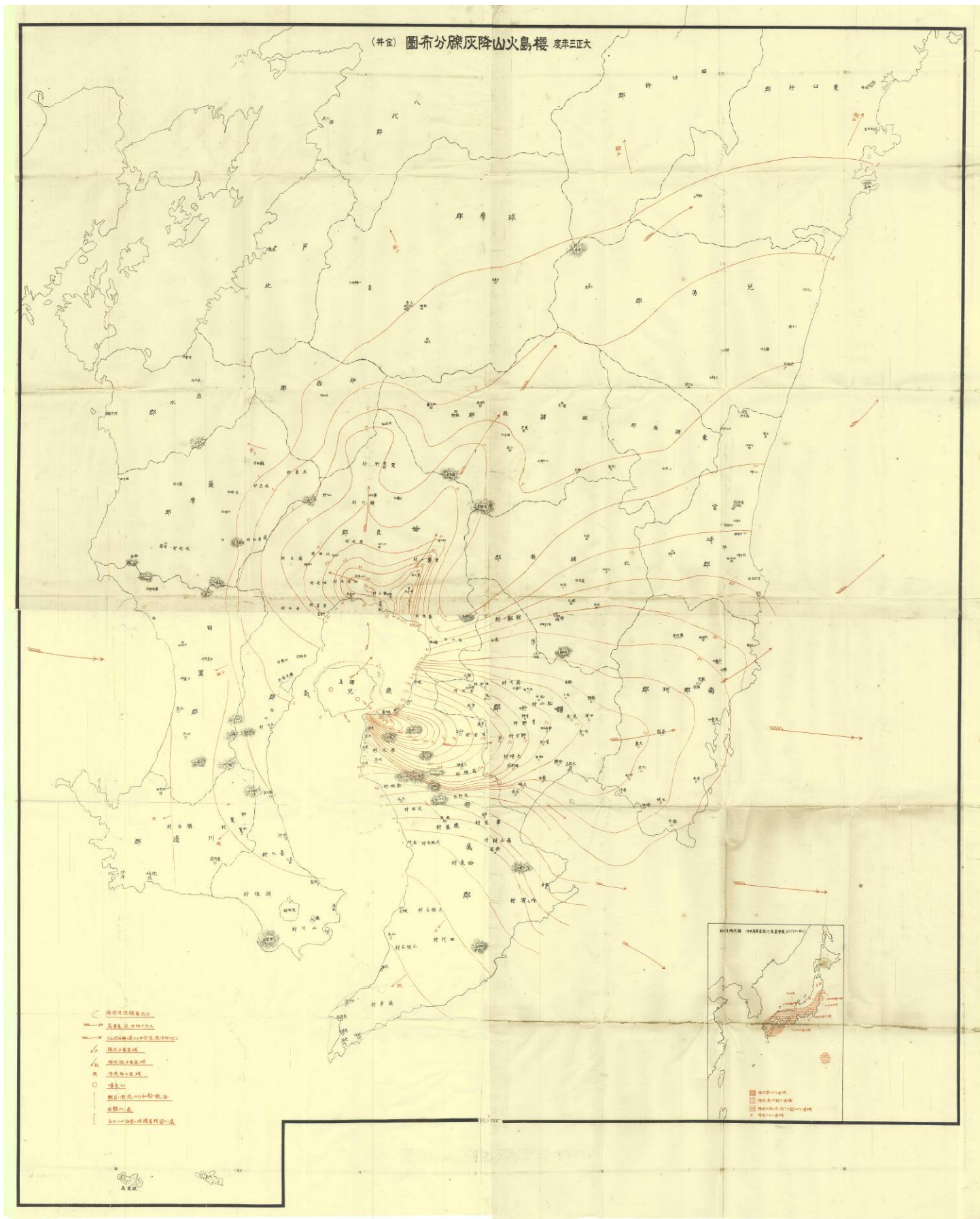


口絵 10 山下兼秀「降灰の惨状」(鹿児島県立博物館蔵)

山下は東京美術学校における黒田清輝の弟子である。
上は赤熱した火砕流噴火と海岸沿いの火災の様子、下は垂水市牛根の様子



口絵 11 山下兼秀「桜島大爆発絵巻」(部分) 出典：鹿児島市立美術館，巨匠たちが描く桜島，1988





口絵 13 桜島の年代別溶岩流の分布

(画像：国際航業(株)、溶岩分布図：小林哲夫・佐々木寿)



口絵 14 桜島全景 (2010年2月撮影) (提供：国土交通省大隅河川国道事務所)



口絵 15 櫻島爆發記念碑 (東櫻島小学校)



口絵 16 同左裏面の碑文

(提供：国土交通省大隅河川国道事務所)



口絵 17 移住記念碑 (西之表市中割)



口絵 18 串良川改修記念碑 (東串良町豊栄橋)



口絵 19 大正 3 年の鹿兒島県の地名